

平成30年度 日本大学豊山女子高等学校・中学校 自己評価票

【本校の目指す学校像】

日本大学の建学の精神「自主創造」に基づき、ものごとを正しく判断できる素直な心と心身ともに健康で明るく、思いやりがあり、常に学習を大切にする生徒の育成を目標とする。また、個性の教育を尊重しながらも集団の中でも責任を持って人と協調できる人間に成長させることのできる教育機関を目指す。

【本校の特長及び課題】

本校は、日本大学付属校の中で唯一の女子教育を専門とする高等学校・中学校である。大学進学率の向上はもとより、創造力と人間的な魅力ある人物の育成を目標として、社会で活躍する女性を目指した教育を実践する。今後、さらに生徒の可能性を最大限に発展させることができる教育の場となるよう、生徒の教育環境の整備と学習効率の向上に努める。

平成30年度の取組結果

【概況】

本年度の取組目標及び方策について、その取組結果は、おおむね良好な成果が得られたが、この結果に満足することなく、さらなる目標を設定し改善していきたい。

タブレット端末の導入、高校のコース設定を実施し2年となった。中学ニュージーランド短期留学やA特進クラスの「ボストンLADYプログラム」を実施し、参加生徒の著しい成長を見ることができた。またキャリア教育、探究学習発表会など、新しい行事も実施した。実施成果を生徒に還元するとともに、外部への発信も行いながら、魅力ある学校づくりをしていきたい。常に見直しを行い、より良い事業を計画し、充実した教育内容、安全安心な学校生活を目指し、様々な面で活動をしていきたい。

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	取組の要となる情報収集のため、積極的な研修会への参加や教育関連業者との連携をとることができた。移行期間を設ける「総合的な探究の時間」の導入については迅速に対応することができた。英語4技能評価や「eポートフォリオ」に備え、英検全員受験やタブレット内でのポートフォリオ作成など具体的な対応を図ることができた。今年度、新学習指導要領により今後の指針は示されたものの、その実現のための方策となるといまだ具体的なものが示されていない面も多い。引き続き、綿密に情報収集を行う必要がある。	B
探究学習への取組	昨年度から始まった高校での探究学習の取組、中学でのキャリア教育は、おおむね計画どおりに実施された。課題の発見、調査・考察、そして発表へと続く一連の流れを、学校行事に組み込むことで体系化することができた。今年度、大きな流れを作ることはできたので、今後は探究学習が生徒たちの進路選択にまで結びつくような実のあるものとするのが求められる。また、学習成果を学内に終わらせることなく外部にも積極的に発信していくことが重要である。	B
国際交流教育の取組	ネイティブ教員の増員（常時4名在籍）、海外英語研修の実施（中学：ニュージーランド短期留学、ブリティッシュヒルズ研修 高校：カナダ海外英語研修）、英検全員受験と対策講座開講などにより充実を図ることができた。実際、「F1 in schools 世界大会」への挑戦、A特進クラスの「LADYプログラム」への参加とボストン修学旅行時の英語によるスピーチなど、高大連携のメリットを生かしつつ、積極的に海外に飛び出すことができた。今後はこうした取組の成果をまとめ、広報とよく連	B

	携し、外部への発信にも力を入れたい。	
--	--------------------	--

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための取組	集会やホームルーム等様々な場面を活用し、意識を高められるように啓もう活動を継続していく。いじめアンケートを年2回実施。実際にいじめがあったとの報告を受けた場合は、すぐに該当生徒に聞き取りを行うとともに、関係生徒や関係クラスに臨時でアンケートを実施する。	A
挨拶の励行	全教職員が共通の意識を持ち、率先垂範する取組の効果が表れてきている。さらなる成果が上げられるように教職員で認識を共有し取り組んでいく。来校者の方々から、生徒の挨拶が爽やかで気持ちが良いとの声も数多くいただくことができた。今後も継続したい。	B
登下校時におけるマナーの向上	集会やホームルーム等様々な場面を活用が功を奏しており、苦情を寄せられる数が減少している。問題になるのは登下校時の車での送り迎えの際の駐車マナーや保護者の走行マナーで、狭い道路のため、近隣からの苦情が寄せられている。保護者への注意喚起について検討していきたい。生徒対象の同様の取組を今後も継続していく。登校指導も継続し、教員も「登校指導の意味」を認識したい。	B

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
部活動・委員会活動等の維持存続	部活動への加入率が下がっているように感じる。現に、部活動によっては人数の不足で大会参加すら危うい部活動も出始めている。加入者の偏りの解消や加入率の向上等検討しつつ可能な限り対策を講じていきたい。また、平成29年度から特進クラスがスタートし、カリキュラムの改定に伴い今年度も7時間目や講習会が実施されている。その事による部活動での取組時間の削減により、生徒の充実感や達成感が阻害されているところもあるように感じる。学力の向上に反比例して、本学の教育理念自主創造の精神の涵養が減速しないように、今後ともさらに助言・指導していきたい。委員会活動においても実質の管轄や活動量等を再検討し、可能な限り不公平なく進めていきたい。	B
体育祭・文化祭について	平成30年度は体育祭を6月、文化祭を10月に実施した。体育祭に関しては準備開始を前年度2月より計画していたが、計画どおりに進められず4月からかなり慌ただしかった。文化祭に関しては10月の実施とあって高校3年生の関わり方が非常に難しくなった。実行委員等の生徒の役割から教員の分掌に至るまでかなりの配慮を要し、10月実施につき大きな疑問が残った。高校3年生を除く生徒においては、実行委員を中心として教職員とも協力しながら尽力し、見事成功へ導いてくれた。次年度も高校3年生の関わり方に注意しつつ、生徒の自主性を尊重しながら引き続き教職員全員に協力を仰ぎ、成功に導いていきたい。	B

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	高校全学年生徒を対象に、全ての学部から講師と卒業生を招き、日本大学の魅力を伝える説明会を実施しているほか、学部案内を各教室に設置してオープンキャンパス等にも積極的に参加を呼び掛けている。また、指定校をAB2つのグループに分	A

	け、校内選考の順番を「指定校Aグループ」「日本大学付属特別選抜」「指定校Bグループ」にするなど、安易に指定校推薦に流されないようにした。その結果、日本大学への進学率は昨年度より若干（4%）上がった。	
新付属推薦制度への対応	4月・9月実施の基礎学力到達度テストに向けて、生徒の学力を少しでも上げるため、学習内容を工夫するだけでなく対策講座を設け、生徒への啓蒙活動もこまめに行った。新付属推薦制度は4年目に入り、まだ定着しきっていないが大学本部から提示される新付属推薦生徒に関する情報が届き次第教員・生徒に提示し、可能な限り早めの対応をした。初めてのものに関しては、話し合いを持った上で慎重に対応した。また、次年度以降の記述問題への対応についても毎日の授業から意識させ、記述対策を実施していく。	B

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
学校感染症などへの対処	インフルエンザや胃腸炎などの感染症拡大を防ぐための対策として、予防の徹底及び啓もう活動や消毒液の設置などを行ったことで、校内での感染症拡大を最小限度に収めることができた。	A
保健室・生徒相談室の施設設備への配慮	身体的不調を訴える生徒だけでなく、心理的な不調を訴える生徒が多くなってきた。昨年度より実人数は中学、高校共に増加している。 保健室の人員・設備配置の問題や生徒相談室の配置の問題が課題として挙げられる。	B

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
読書教育	蔵書点検の際に図書委員の協力を得た。夏期蔵書点検（7月）は中学1、2年生が中心となって実施した。「自分たちの図書館を、自らの手で整える」という、意識を持てるよう指導した。「図書館新聞」を各学期末に発行し読書教育の発展に貢献した。	A
図書館利用の推進	高校生、中学生を対象として、「多読賞」を設定し、貸出冊数の上位者に対して、「個人部門」「クラス部門」の2部門（各3位まで）で表彰を行うことにより、図書館利用の促進を図った。前年度に比して図書館利用者が増加した。 図書選定委員会には各教科からの要望の受け皿となるよう協力を求めた。結果、図書選定委員からの選書・リクエストが増加、教職員の利用者数が増加した。また、生徒からの希望図書のリクエストカードを書庫、及び生徒ラウンジに設置した。	B

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
学校案内・Webサイト・校報誌の充実	学校案内からのブランディングをテーマとして継続性を重視した。本校の教育活動の周知に大いに役立った。	A
志願者の増加	説明会参加者は昨年比で減少したが、生徒の様子を伝える取組が大変好評であり、志願者の増加へつながった。	B

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
教職員の適正な勤務体制	教員へ変形労働時間制を導入し、勤務管理の徹底を目指し、教員の適正な勤務体制を整えた。	A
施設・設備・校地・校舎	専任教職員が一体となって、施設の維持・管理に努めた。また、生徒の自主学習の環境をより整えるなど充実を目指した。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

平成31年度の取組目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	常に情報収集に努め、教務部とカリキュラム委員会が中核となって研究、新教育課程の作成と導入までのスケジュールを組む。中高一貫校であることを鑑み、中学・高等学校双方の新教育課程の作成に取り組む。	年度当初に教育課程導入までのスケジュールを確定する。同時に学校ルーブリックの策定。1学期は全校と各教科それぞれの教育課程編成方針の策定。2学期は全校教育課程の調整、教科ルーブリックの作成を行う。年度末には中学・高校の新教育課程を決定する。

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	集会やホームルーム等様々な場面を活用し、意識を高められるように啓もう活動を継続していく。外部講師を招き学習会を2回実施する。	年度当初より教職員会議や生活指導部会等で確認の徹底、意識の向上を図る。
挨拶の励行	全教職員が共通意識を持ち、率先垂範する事で元気な挨拶が溢れる学校を作る。	教職員会議や生活指導部会等で確認の徹底、意識の向上を図る。
登下校時におけるマナーの向上	集会やホームルーム等様々な場面を活用し、意識を高められるように啓蒙活動を継続していく。	集会やホームルーム等様々な場面を活用。 苦情を寄せられたら、生徒が理解できるように説明し、注意喚起を行う。登校指導を継続し実施する。

課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
委員会活動の充実	学校行事等との関係もあり、各種委員会の活動内容も変化している。よって各種委員会の活動内容を見直し、より活発で効率的な活動を推進する。	現状の活動内容や生徒会との関連を見直し、活動に偏りがなく且つ日頃から活発な活動がさらにできるように進めたい。
課外活動における自主性・協調性の伸長	本校学校行事を裏方として支えたり、人の為に尽力する部活動がある。部活動のみならず学校生活全般、文化祭や体育祭等の学校行事においても多くの生徒	体育祭や文化祭等の学校行事で少しでも生徒が活躍できるよう工夫していく。生徒会新聞等で学校行事

	に地域との交流やボランティア活動等の場を少しでも提供し、自主性・協調性の伸長をさらに図っていききたい。	実施の裏側などを記事にし、生徒の意識付けの一助とする。外部からの広報誌のさらなる活用の検討、日本大学本部や地域主催の各種生徒会活動にも積極的に参加していく。
--	---	--

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	全学年対象進路説明会の充実と体験学習やオープンキャンパスなどへの積極的な参加を呼びかけることと校内選考の工夫と基礎学力選抜での進学の実	進路説明会や、オープンキャンパスなどの周知徹底は従来どおり行う。また、基礎学力到達度テストで十分な学力が発揮できるよう対策を講じる。校内選考の工夫も引き続き行う。
新付属推薦制度への対応	基礎学力選抜と付属特別選抜の日程、データ処理等の検討	昨年度の流れを踏まえて、より良い学内日程等になるよう改善すべきところを検討する。

保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
カウンセラーとの連携	精神的不調の生徒が増えつつあるので、教員とカウンセラーとのコンタクトがとりやすい環境を整える。とりわけ不安定になりやすい中学生への支援体制を整備する。	適宜実施
保健室・生徒相談室の施設整備への配慮	保健室・生徒相談室の校内における配置場所について再考をお願いする。また、保健室は負担過重であることから、人員の充足については早急な対応を希望する。	随時

図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
読書教育	中学生・高校生を対象とした「多読賞」を設定しており、生徒の読書離れの改善に資するよう、さらに拡充・充実させていく。生徒の図書リクエストに応じた適切な対応を強化する。修学旅行の実施場所の変更に伴い、事前学習に資する図書資料を新たに整備する。	図書館「多読賞」対象（冊数）期間平成31年4月～平成32年1月の図書貸出冊数が中学校及び高校でも増加するよう、図書館新聞等で告知する。なお、平成30年度「多読賞」表彰を平成31年4月に行うことにより、新入生の図書館利用に関する意識を向上させたい。
図書館利用の推進	図書館に併設した「リーディングルーム」を設定。生徒に人気のある購読雑誌を開架式で設置している。より利用しやすい図書館となるよう改善した。	「リーディングルーム」（中学・高校共通）を活用し、図書館環境の一層の改善を図ることにより、図書館利用の推進を図る。

	<p>テーマを設けて、使い勝手の良い書架を配置した。図書選定・展示等一層魅力ある図書館づくりを推進する。</p> <p>図書館新聞（年3回）を利用して、図書館利用の動機づけを強化する。</p>	<p>「図書館新聞」で、「先生」「生徒」が薦める「図書館の本」企画をさらに充実させ、第2学期以降の貸出冊数を増加させるよう努める。</p>
--	--	---

広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
学校案内・Webサイト・校報誌の充実	本校の教育目標、教育内容、特に新しい取組について工夫を継続する。	「自主創造」の精神に基づき、計画的に制作する。
志願者の増加	学校説明会の様々なプログラムを通して、本校の良さをアピールし、参加者の受験率を上げる。	学校説明会、外部説明会、塾訪問など年度当初にスケジュール・内容を決定し、効果的に実施する。

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
教職員の適正な勤務体制	教員へ変形労働時間制を導入し、勤務管理の徹底を目指すことで、教員の適正な勤務体制を整える。	変形労働時間制が3年目を向かえ、さらに教員の勤務体制への意識変革を推進していく。併せて可能な限り優秀な非常勤講師の確保を目指す。
施設・設備・校地・校舎	生徒数確保へ向け、より安全・安心の施設への取組を進める。補助金の獲得・活用を念頭に置き、施設の充実を目指す。	ホームページ・説明会などでも女子校ならではの施設設備面のアピールしていく。

中長期的目標の取組結果

管理部門

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
教職員の人材確保	優秀な専任教職員を新規採用等によって確保し、学校組織の安定化を図る。平成30年度は専任教員2名、常勤講師A1名を採用し、3名ともクラス担任として生徒指導等に邁進している。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

中長期的目標及び方策

管理部門

取組目標	取組方策	取組スケジュール
教職員の学校運営等のスキル向上	学外で実施される教科ごとの研修のほか、学内においても教員同士の授業見学・研究等を行い、学校運営・生徒指導の向上を図る。	平成31年度以降、教科ごとの専任教職員の学外研修への参加推進。ICT教育や生徒ポートフォリオの推進で学校全体の意識の共通化を図っていく。